

唐津地方の磨崖仏①

～立石石仏（たついしせきぶつ）（・十一面をいただき合掌する観音像・阿弥陀如来坐像・薬師如来生像）～

唐津市相知町立石

立石石仏は、巖木川に注ぐ平山川沿いの米ノ山という所にある。相知の街中から向かうと、米ノ山橋の南側で右折して農道を進み、行き止まりの駐車場背面に屹立する岩壁半ばの所にある。そこに建つ「仏岩再興記念碑」には明治40年（1907）6月、参拝の便をはかって再興したことや、彫刻されている尊像は弥陀・観音・薬師であることを伝え、ここの場所は「仏岩（ほとけいわ）」と呼ばれていたと書いてある。

■十一面をいただき合掌する観音像

奥壁に向かって右に、頭上に十一面を頂く観音像がある。二臂（にひ）合掌像は十一面観音像とは決め難く、二臂の千手観音像とみた方がよいのではなかろうか。長安寺（大分県）が持つ銅板法華経の銅箱坂に六観音の線刻像があるが、その中に二臂合掌の千手観音像が描かれている。肩に垂髪を垂らし、広い肩巾や太い腰などの形状は平安時代の像容である。

■阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像は大きさも像容も隣の観音立像とバランスをとって彫られ、同じ時期の制作である。肉髻（にっけい）と地髪（じはつ）がほどよく整えられ、髪際（はっさい）線にはたるみもない。偏袒右肩（へんたんうけん）に衣を着け、弥陀定印（みだじょういん）を結んで蓮台に生し、大ぶりに開く蓮弁は葺寄式（ふきよせしき）である。

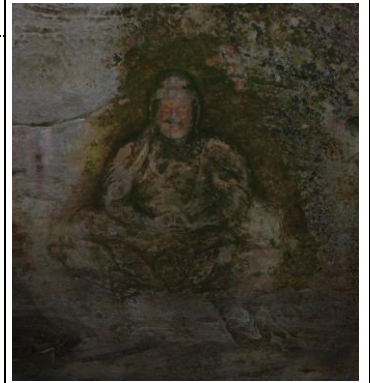
■薬師如来生像

薬師如来像は、十一面をいただき合掌する観音像や阿弥陀如来の二尊よりひとまわり大きい。顔に損傷があり、当初の面影は推察しにくい。首は短く、両肩とも異様に隆起していて、膝の大きさに比べると両手も薬壺も小さく、あまりバランスのとれた像とはいえない。技量にも差があり、前の二尊よりやや遅れて彫刻されたと考えられる。

分野 歴史

地域 相知

◎地図・写真・統計資料など



（唐津市教育委員会より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『相知の文化財』（第二集）
- ◆『肥前相知 鶴殿石仏』（九州の寺社シリーズ）九州歴史資料館 平成三年（1991、3月）／編集九州歴史資料館：発行相知町教育委員会
- ◆『佐賀県の文化財』／編集佐賀県教育委員会

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html